

ヒトエグサ養殖試験—1

—養殖適地調査—

昭和58年11月10日から59年10月1日の間において、①伊平屋②伊是名③伊江島の3地区でヒトエグサの養殖適地調査を実施したのでその概要を報告する。

1. 調査員

沖縄県漁業者センター 専 技 瀬 底 正 武

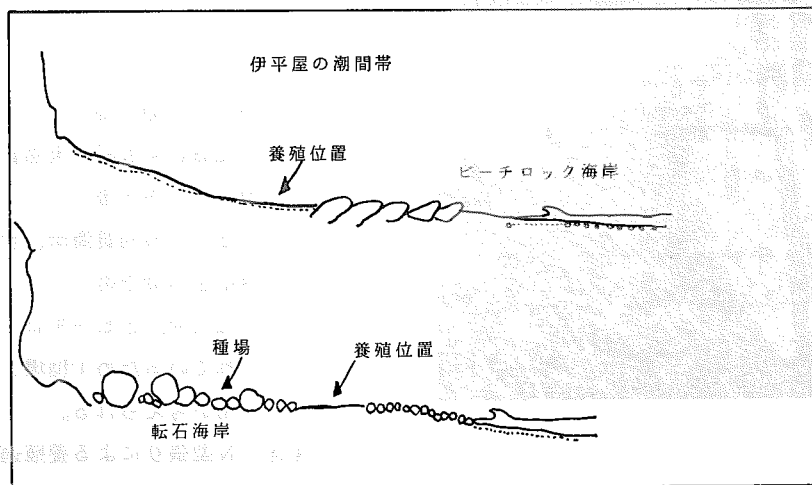
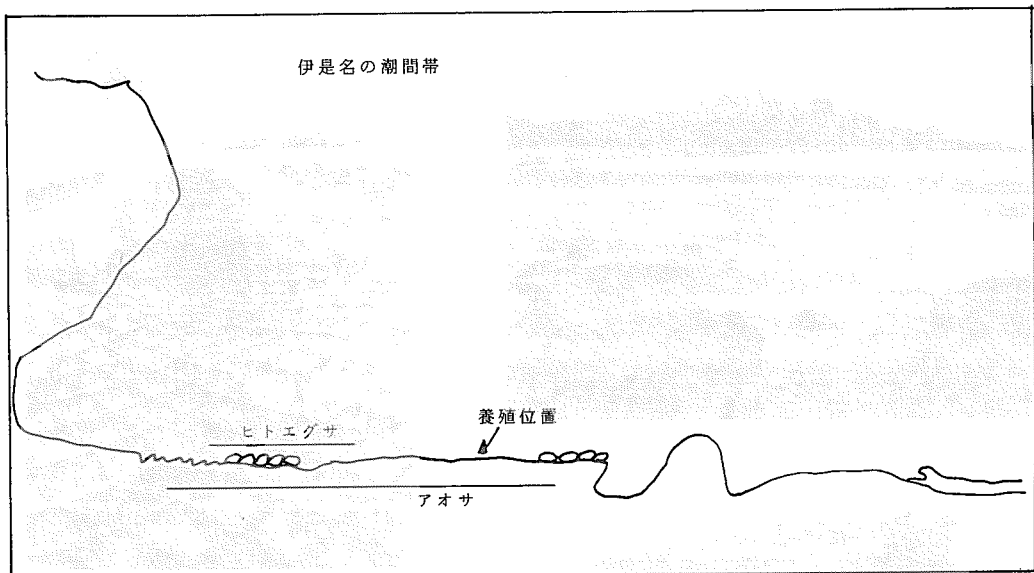
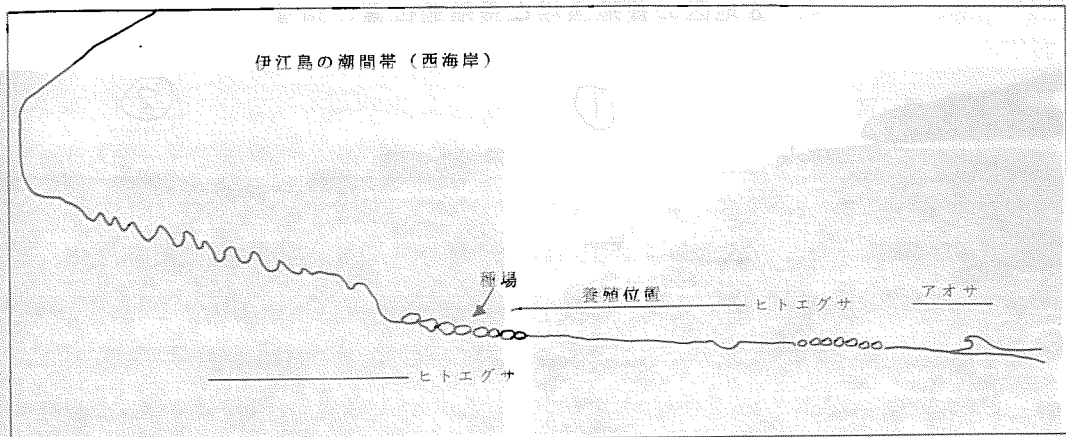
” 普及員 諸見里 聰

” ” 佐 多 忠 夫

2. 天然自生体の着生状況と漁場の概要

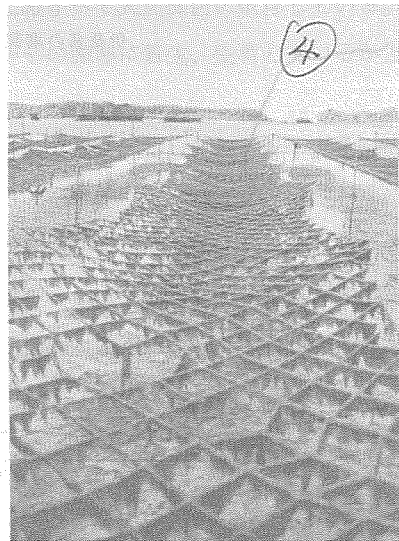
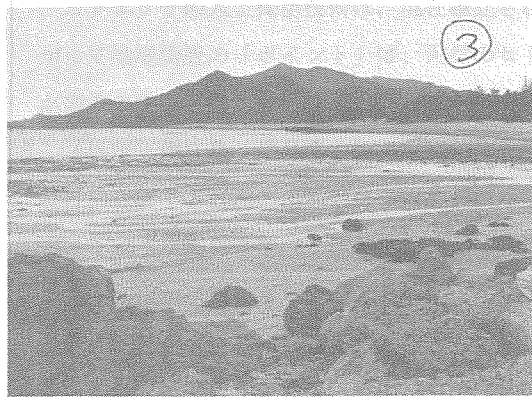
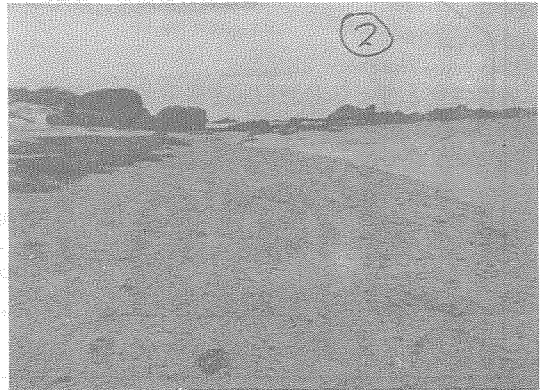
ヒトエグサの人工採苗技術は、現在確立されてないためすべて天然採苗に依存している。したがって漁場調査の「ポイント」は、天然のヒトエグサがその漁場に着生、生育しているかどうか調査の主眼となる。

3地区（伊江島、伊是名、伊平屋）沿岸は図に示されるように網張りに適した干潟を形成し底質は砂利質であり海底の地形は平坦で、所々凹凸がある。特に伊平屋の潮干帯は、転石海岸及びビーチロック海岸を形成し前者においては種場としての利用が有効であり、後者は本張りと種場の共同利用が可能である。他、2地区についても採苗のポイントである天然自生体の生育が転石や砂利、サンゴ片等にも着生、生育していることから①種場と②本張りの共同利用が可能である。以上が目視観察による調査と着生、生育層を調べるためのノリ網によるN型張り調査を実施した結果である。60年度から61年度にかけては①天然採苗技術の確立②網の高さ③網張り後の養殖管理等についての試験を実施したい。



3 地区の潮間帯と養殖位置

3 地区の養殖漁場と養殖適位置の調査



- ① 伊江島の潮干帯
転石と平板石に天然自生体繁茂
- ② 伊是名の潮干帯
転石と砂利質海岸、自生繁茂
- ③ 伊平屋の潮干帯
転石海岸とビーチロック海岸が形成されているため①種場と②本張りの別利用が考えられる。
- ④⑤ N型張りによる養殖適位置と高さの調査、④は恩納地区の養殖風景。